

参加チーム代表、監督、審判員 各位

第 14 回守谷市長杯争奪少年野球大会

守谷市スポーツ少年団軟式野球部会
審判部長

試合のスピードアップ、マナー向上、審判の服装について

全日本野球会議審判技術委員会より、試合のスピードアップ・マナーの向上、審判の服装等について国内の各団体に対し、種々通達がなされております。これらは各種国際大会において国際基準と日本側との間にギャップがあることを示します。

また、近年の公認野球規則改正も試合のスピードアップに関連した事項が多いようです。マナーの向上については即刻ペナルティになるものではありませんが、国際基準とのギャップがあることを理解し、日本野球の裾野にあたる少年野球の指導、運営に携わる者は、将来学生や社会人、プロとして野球をしてゆく小学生に、今から国際基準のマナーを身に付けることの重要性を認識して頂きたいと思っております。その為下記に示す事項をチームの指導者、大人達が理解し、子供たちにお手本を示しながら指導していただけたらと存じます。

ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。

記

《スピードアップについて》

1. 選手の攻守交代は、全力疾走で行い、同時に攻撃側のランナーコーチはコーチボックスに入る。
2. 監督がタイムをとってマウンドに行くときは、走って往復する。
3. バッターがサインを見る時は、バッターボックス内で見るとする。(監督は速やかにサインをだす)
4. 打った後のバット引きは、次の打者は行わず、次の次の打者が行うか、バット係りを決めて行う。
5. バッテリーのサイン交換は、速やかに行う。
6. 投球を受けた捕手は球審の判定後速やかに投手に返球する。(ボールと判定されて、ミットを動かさず、じっとしている捕球姿勢行為はスピードダウンに繋がる。)
7. 捕手がスリーアウトの時、バッターランナーもしくは残塁ランナーになった場合、捕手用具の着装をベンチが手伝える。また、同時に、投手のピッチング捕球のための交代要員捕手を出す。

《マナー向上について》

1. 塁上の走者ならびにベースコーチが守備側のサインを盗み打者に知らせる行為の禁止。
2. 捕手が投球を受けた時、ボールをストライクに見せる意図でミットを動かす行為は行わない。
3. 相手チームへの中傷的野次の禁止。特にベンチ外からの発言は慎む。
4. 相手投手・打者への「大声」等によるプレッシャーは慎む。
5. 監督は、シートノック及び試合に、プレーイングフィールドに出るときは、ウインドブレーカーを脱いで行動する。

《審判の服装について》

球 審

- (1) ズボン・・・黒、紺、グレー、ブルーまたはベージュ色等を着用
- (2) 上着・・・同上
- (3) 審判用帽子
- (4) マスク、ブラシ、インジケーター
- (5) 審判靴

塁 審

- (1) 上着、ズボン・・・上下ともユニフォームは避けてください。
- (2) 審判用帽子、ブラシ（各球場 大会運営本部にも用意しています）
- (3) インジケーター
- (4) 審判靴または運動靴

以上